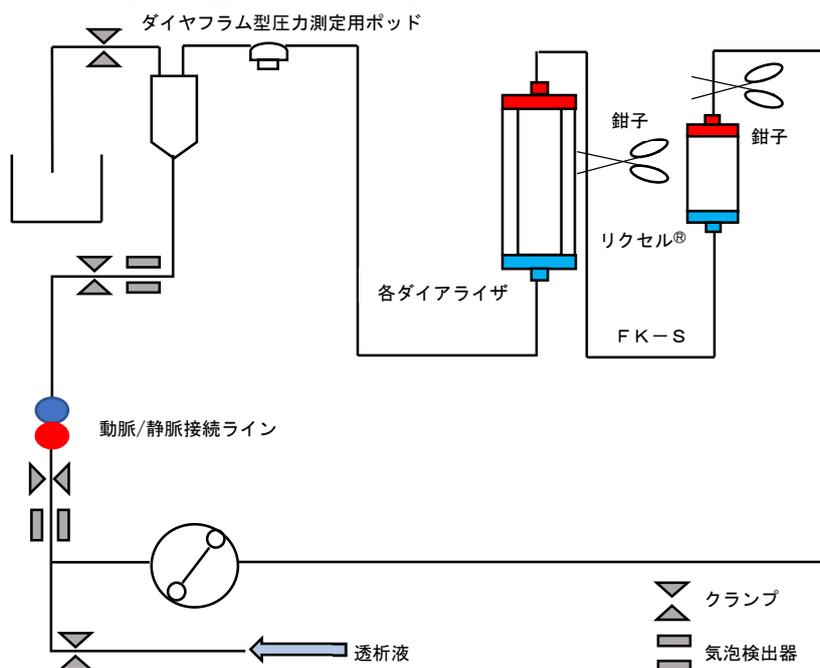


多用途透析装置を利用した使用例
 (日機装 DCS-200Si、DBB-200Si)
 【中空糸型／積層型ダイアライザ】

2. プライミング (図2参照)

リクセル®使用時の自動プライミング操作は、以下の手順で行います。詳細は各項をご覧ください。

- 1) 透析装置に動脈側血液回路、ダイアライザ、リクセル用連結回路 (FK-S)、リクセル®を取り付けます。
- 2) 動脈側血液回路のダイアライザコネクタ (赤色) 付近を鉗子止めした状態でリクセル®入口側と接続します。
- 3) リクセル用連結回路 (FK-S) の廃液ライン (ダミーチューブ) を取り外し、リクセル®出口側にFK-Sのコネクタ (青色) を接続します。この時、リクセル®にエアを混入させないように注意してください。
- 4) FK-Sの中央部を鉗子止めした後に、FK-Sコネクタ (赤色) とダイアライザ血液入口側 (赤色) を接続します。
- 5) 透析装置に静脈側血液回路を取り付け、動脈側と静脈側の血液回路アクセス部を接続してください。
- 6) すべての接続部が適正に接続されていること及びリクセル®とダイアライザの設置向きが図2の通りになっていることを確認した後に、鉗子をすべて取り外します。
- 7) 透析装置の取扱説明書に従って、自動プライミングを実施します。プライミングの置換液量の設定は、1500mL以上で行ってください。



多用途透析装置を利用した使用例
 (日機装 DCS-200Si、DBB-200Si)
 【中空糸型／積層型ダイアライザ】

3. 体外循環

- 1) 動脈側と静脈側の血液回路アクセス部を患者様に接続し、循環血液流量を 100~250mL/min に設定して治療を開始します。
- 2) 体外循環中はヘパリンを継続的に投与します。ヘパリンの投与量には、個人差がありますので、医師の指示のもと適時増減してください。

4. 返血 (図 3 参照)

リクセル®使用時の返血は、次のように行います。詳細は、各項をご覧ください。

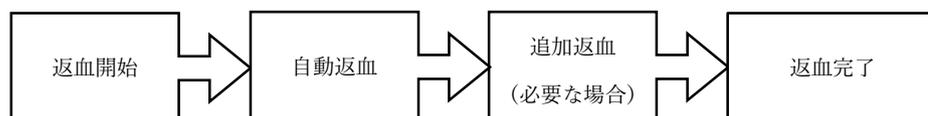


図 3. 返血のフロー

- 1) 透析装置の取扱説明書に従って、返血を開始します。(エア返血はしないでください。)
- 2) リクセル®内の血液を 50mL/min 程度の流量で患者様に戻してください。1 回の返血でリクセル®内の返血が不十分な場合は、追加返血を実施してください。
- 3) 患者様から針を抜去し、治療を終了します。

【 注 意 】 透析装置の設定を変更した場合は、忘れずに元に戻してください。

【使用上の注意】

- 1) ダイアライザとリクセル®の設置向きは、動脈側を上にしてください。
- 2) リクセル®及びダイアライザは血液回路と確実に接続してください。
- 3) 血液循環中や返血中にリクセル®を叩くなど衝撃を加えたり、向きを変えたりすると、リクセル®のポート部に残留したエアが血液回路内に流出する場合があります。

※リクセルは(株)カネカの登録商標です。

販売名：リクセル

医療機器承認番号：20600BZZ00329000

2021年3月
作成：株式会社カネカ